

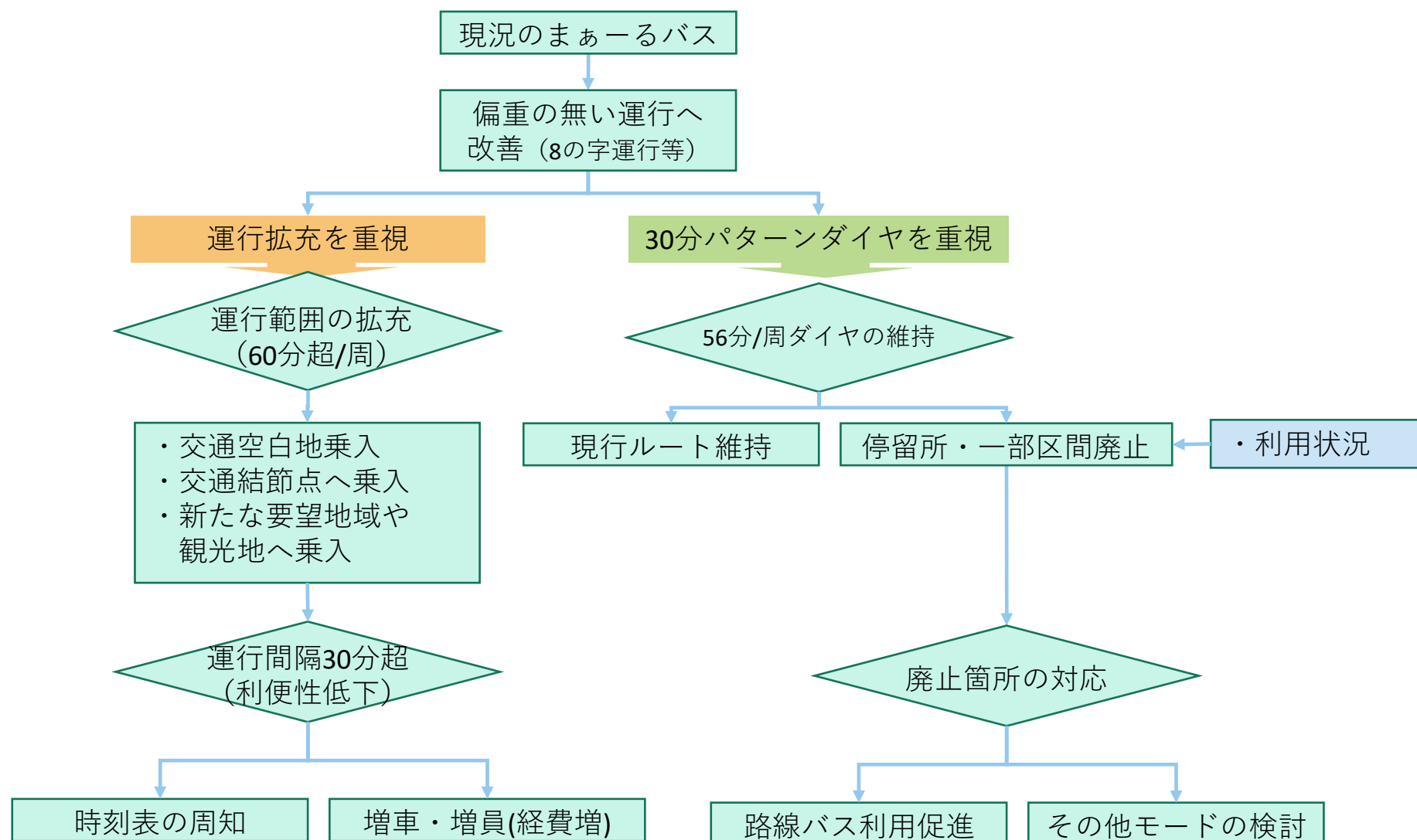
## 運行ルート案策定コンセプト

- 市街地住民はもとより、周辺地域や離島住民、また観光客等の市街地での移動手段(市街地交通)として、現行運行ルートの課題や住民要望を踏まえ、各エリアの経過充足度合いを高めるとともに、中心部までの往来等に係る乗車時間の偏重の解消等、利便性の高い運行を目指す。

## ◆検討のポイント

- 現行のまあるバスの運行資源(車両4台、乗務員8名での運行)は保持
- 乗車時間の偏重の解消(西回りの単純周回の解消等)を検討
- 運行エリアの拡大(エリア内における交通空白地、乗入要望地域、観光地)を検討  
※乗車時間とのバランス、路線バスの利用促進
- 運行形態(30分のパターンダイヤ等)の見直しを検討
- 交通結節点(東萩駅、萩駅、萩バスセンター、萩港)における接続性向上

## 運行ルート案検討フロー



運行ルート案 比較表(その1)

項目	現状		案1		案2		
	西回り	東回り	西回り	東回り	西回り	東回り	
見直しルートの考え方			・現工エリア内の交通空白地の解消/弘法寺経由 ・西回りの8の字周回(単純周回の解消) ・交通結節(JR東萩駅経由)	・現工エリア内の交通空白地の解消/平安古東(新市道経由) ・交通結節(離島航路2路線確保、JR東萩駅経由) ・萩博物館、萩反射炉経由(観光利用利便性)	・現工エリア内の交通空白地の解消/弘法寺経由 ・西回りの8の字周回(単純周回の解消) ・交通結節(JR東萩駅経由)	・現工エリア内の交通空白地の解消/平安古東(新市道経由) ・交通結節(JR東萩駅経由) ・離島航路は経由しない ・萩博物館、萩反射炉経由(観光利用利便性)	
<b>【見直しのポイント】</b>							
経過地充足度(※1)		50%		90%		90%	
交通結節	離島航路	○	○	○	○	○	×
	JR東萩駅	×	○	○	○	○	○
交通空白地	サンライフ・弘法寺	×	×	○	×	○	×
	平安古東(新市道)	×	×	×	○	×	○
延伸・利便性	長山団地	×	×	×	×	×	×
	上野地区	×	×	×	○	×	○
	田町商店街(御成道)	○	×	○	×	○	×
観光地対応	萩博物館	○	×	×	○	×	○
	萩反射炉	×	×	×	○	×	○
	明倫学舎	○	○	○	○	○	○
所要時間	56分	56分	68分	68分	64分	72分	
距離	17.1km	19.0km	19.9km	23.1km	18.9km	22km	
所要時間評価(※2)	中心部まで35分以内で行ける主要停留所割合	44.4%	100%	100%	100%	100%	75%
	中心部から35分以内で行ける主要停留所割合	88.9%	100%	100%	100%	100%	100%
	往路復路の所要時間差35分以内の主要停留所の割合	88.9%	100%	100%	100%	100%	87.5%
運行間隔(最短)	30分間隔		40分間隔		45分間隔		
便数	23便	23便	18便	18便	16便(18便可)	16便	
総合評価			A		B		
特記事項	・行き帰り等の乗車時間の短縮要望		・市役所を拠点とした8の字運行(途中市役所経由) ・萩博物館を東回りに移行	・市役所を拠点とした8の字運行(途中市役所経由) ・上野地区周回(新設バス停/玉太郎、通心寺前)	・バスセンター、市役所、アトラス前バス停を拠点バス停とし、行き帰りで時間差解消(目的地に応じて選択) ・市役所始発→市民病院→アトラス→バスセンターを周回し、途中市役所を経由しない ・東回りの少ない便数に合わせている	・反射炉まで延長しない場合は、距離0.7km、時間3分の短縮(40分間隔も可能となる) ・離島航路は西回りのみで対応	

(※1)交通結節点(定期船のりば入口、東萩駅前)、交通空白地(サンライフ・弘法寺、平安古東(新市道))、延伸・利便性(長山団地、上野地区、田町商店街(御成道)、観光地対応(萩博物館、萩反射炉、明倫学舎)を経過する割合  
 (※2)中心部バス停(市役所、バスセンター)まで35分(全体の所要時分約70分の1/2)でいける主要停留所の割合  
 主要停留所:東萩駅、萩駅、玉江駅(西)、定期船のりば入口、萩市民病院、保健センター、河添河川公園(西)、ザ・ビッグ(西)、藍場川(西)、萩博物館前(西)、指月公園(西)、松陰神社前(東)、萩シーマート(東)、椿東ショッピングセンター(東)

# 萩循環まあるバス 運行ルート案 コンセプト・検討条件

運行ルート案 比較表(その2)

項目	案3		案4/案1の両回り案		案5(パターンダイヤ維持)	
	西回り	東回り	西回り	東回り	西回り	東回り
見直しルートの考え方	案1と同様	案1がベース ・長山団地延伸	案1の両回り案	案1の両回り案	・御成道区間廃止 ・西回りの8の字周回(単純周回の解消)	現行ルート
【見直しのポイント】						
経過地充足度(※1)	100%		90%		40%	
交通結節	離島航路	○	○	○	○	○
	JR東萩駅	○	○	○	×	○
交通空白地	サンライフ・弘法寺	○	×	○	×	×
	平安古東(新市道)	×	○	×	○	×
延伸・利便性	長山団地	×	○	×	×	×
	上野地区	×	○	×	○	×
	田町商店街(御成道)	○	×	○	×	×
観光地対応	萩博物館	×	○	×	○	×
	萩反射炉	×	○	×	×	×
	明倫学舎	○	○	○	○	○
所要時間	68分	75分	68分	市民病院先回り68分 上野先回り69分	57分	56分
距離	19.9km	25.5km	定期船乗場先回り20.1km 市民病院先回り19.9km	市民病院先回り23.1km 上野先回り23km	18.4km	19.0km
所要時間評価(※2)	中心部まで35分以内で行ける主要停留所割合	100%	87.5%	100%	100%	100%
	中心部から35分以内で行ける主要停留所割合	100%	100%	100%	100%	100%
	往路復路の所要時間差35分以内の主要停留所の割合	100%	100%	100%	100%	100%
運行間隔(最短)	45分間隔		定期船乗場先回り 80分間隔(案1/正) 市民病院先回り 80分間隔(案1/逆) 合わせて40分間隔	市民病院先回り 80分間隔(案1/正) 上野先回り 80分間隔(案1/逆) 合わせて40分間隔	30分間隔	
便数	16便(18便可)	16便	市民病院先回り9便 定期船乗場先回り9便 計18便	市民病院先回り9便 上野先回り9便 計18便	23便	23便
総合評価	B		B		C	
特記事項	・市役所を拠点とした8の字運行(途中市役所経由) ・萩博物館を東回りに移行 ・東回りの少ない便数に合わせている	長山団地内に回転場の整備が必要となる ・反射炉まで延長しない場合は、距離0.7km、時間3分の短縮 ・長山団地まで延長しない場合は、距離2.4km、時間7分の短縮	・バスセンター、市役所、アトラス前バス停を拠点バス停とし、行き帰りでの時間差解消(目的地に応じて選択) ・各方向は80分間隔運行(同一周回便は半減)	・反射炉まで延長しない場合は、距離0.7km、時間3分の短縮 ・各方向は80分間隔運行(同一周回便は半減)	・廃止区間の発生(萩美術館～田町) ・バスセンター、市役所、アトラス前バス停を拠点バス停とし、行き帰りでの時間差解消(目的地に応じて選択)	

(※1)交通結節点(定期船のりば入口、東萩駅前)、交通空白地(サンライフ・弘法寺、平安古東(新市道))、延伸・利便性(長山団地、上野地区、田町商店街(御成道)、観光地対応(萩博物館、萩反射炉、明倫学舎))を経過する割合

(※2)中心部バス停(市役所、バスセンター)まで35分(全体の所要時分約70分の1/2)でいける主要停留所の割合

主要停留所:東萩駅、萩駅、玉江駅(西)、定期船のりば入口、萩市民病院、保健センター、河添河川公園(西)、ザ・ビッグ(西)、藍場川(西)、萩博物館前(西)、指月公園(西)、松陰神社前(東)、萩しーまーと(東)、椿東ショッピングセンター(東)